

2007年6月29日 [Morning 版]

概況

FOMC 声明待ちで全体に模様眺めとなる中、ドル円は 123 円をはさんで一進一退の展開となりました。

米国 GDP 確報は 0.6%から 0.7%に上方修正、GDP デフレーターも 4.0%から 4.2%に引き上げられましたが、市場の関心は薄く反応は限定的。新規 失業保険申請件数も 31.3 万件と予想の範囲に収まり影響はありませんでした。

注目の FOMC は、政策金利は予想通り全会一致で 5.25%に据え置くことを決定。声明文は前回はほぼ踏襲し「今後の政策調整はインフレと成長の見通し次第」。インフレに関しては「コアインフレは緩やかに改善」と指摘しながらも、「インフレが鈍化しないリスクが最大の懸念」と警戒を緩めない姿勢を示しました。

これを受けてドル買いが若干優勢となり、ドル円は一時 123.30 円付近へ上昇、ユーロドルは 1.3425 付近へ下落しました。

一方、米国金利上昇し、NY ダウがわずかながらマイナスとなったことからユーロ円は上値が重くなり、165.50 - 60 円付近での横ばいで推移しました。

ポンドは英ネーションワイド住宅価格指数が市場予想を上回ったことから 2.0040 付近まで上昇しましたが、その後キング英中銀総裁が「インフレ率は急に低下」「住宅市場は鈍化の兆候」などと発言したことから伸び悩みとなりました。

原油先物は前日からのガソリン主導の上昇を引き継ぎ、一時は昨年 9 月以来の 70 ドル台に上昇。

これを受けてカナダドル買いに火がつき、ドルカナダは 1.05 台に突入。カナダ円は 116 円台を回復し、116.40 円付近と年初来高値を更新しました。金相場も上昇し、豪ドルも対ドル・対円とも上昇が目立ちました。

このレポートは情報提供のみを目的に配信しています。情報の正確性には努めておりますが、最終的な投資・運用の判断はお客様の責任で行ってください。掲載記事の著作権は山崎 豊に帰属します。なおレポートの内容に関するご質問などは、トレイダーズ証券株式会社までお願いします。
お問い合わせ:0120-04-2424

本日の見通し

FOMC 声明は特に目新しい内容ではありませんでしたが、景気や住宅市場には楽観しつつ、インフレに対しては警戒を緩めない姿勢は、素直に受け取るなら「当面は利下げはない」と読むことができ、ドルに対してはサポータティブ。住宅市場の減速やサブプライム問題に関して何か言及があるか注目でしたが、「住宅市場の調整が進行中にもかかわらず、経済は緩やかに成長」とあっさりした表現にとどまりました。メンバーは経済は減速してもなお堅調と見ており、住宅市場減速を理由とした利下げは今のところ議論に上がっていないようです。

もともと住宅価格の上昇分を担保とした借り入れが過剰消費につながっているという懸念があっただけに、FRBとしては多少減速するくらいが適切と考えているのかもしれませんが、仮に住宅価格が低下せずさらに上昇していれば、より景気が過熱し、1年以上も政策金利を据え置くことは不可能だったでしょう。米国経済に関しては、神経質な人はいろいろとイチャモンをつけたがるものですが、適度の経済成長とインフレ懸念の後退で非常にバランスの取れた状態にあることは明白です。長期金利はやや上昇しましたが、インフレ懸念から債券が売られる「悪い金利上昇」ではなく、株式市場の上昇と共存できる「よい金利上昇」といえるでしょう。米国経済やFRBの政策運営に対する信頼感が向上し、ドルは徐々に強くなっていくと見ています。

長めの話はさておき、本日の見通しですが、月末・四半期末で、国内外の利益送金、リパトリなどの特殊要因や海外リアルマネーフンドのポートフォリオのリバランスなどイレギュラーな取引が交錯するため予想が難しく、短期的には柔軟に対応するべきとしか言いようがありません。

ただFOMCや四半期末を控えてキャリートレード勢はポジションをかなり縮小していたはずで、これらのイベントを無事通過することにより、ポジションを再構築する、つまり円を売り直す動きが出てくることは容易に想像ができます。イベントが結局無風で終わったことからボラティリティも低下する見通しで、キャリートレード勢の円売り安心感も回復するでしょう。また本日は日本の公務員のボーナス支給日であり、日本人の外貨買いの第二陣がスタートすることから、外債売り出しや投信設定も話題となるでしょう。円売り意欲は引き続き旺盛で、ドル円、ユーロ円とも強気スタンス継続です。ユーロドルは1.35付近が壁となり1.33 - 1.34台でのレンジ取引が継続すると見ています。

予想レンジ ドル円: 122.80-123.80 ユーロドル: 1.3380-1.3480 ユーロ円: 165.00-166.50

このレポートは情報提供のみを目的に配信しています。情報の正確性には努めておりますが、最終的な投資・運用の判断はお客様の責任で行ってください。掲載記事の著作権は山崎 豊に帰属します。なおレポートの内容に関するご質問などは、トレイダーズ証券株式会社までお願いします。
お問い合わせ: 0120-04-2424